

東山梨教育協議会「進路教育研究部会」 研究の経過と概要

東山梨教育協議会では、「教科別部会」と「問題別部会」の2部会への所属により、研究を進めてきた。1部会制になり、旧問題別部会の中には希望者が少なく、十分な構成員がいなかったため成立しない部会もあった。進路教育部会もその一つであったが、再開して5年が経過した。キャリア教育の推進が掲げられる中、各中学校からだけでなく小学校からの所属部員も増え研究に広がり生まれつつある。これまで、以下のように小学校・中学校で研究授業を一回ずつ行い、研究を進めてきた。

平成 21 年度

「みそ販売プロジェクト」(小6)

「今の自分、これからの自分」(中1)

平成 22 年度

「職場体験学習を通じた進路学習」(中2)

「中学校生活を先輩(中1)に聞く会」(小6)

平成 23 年度

「受験期を迎えての生活」～学校説明会、オープンスクールに参加して～(中3)

「いつもありがとう」(小2)

平成 24 年度

『運動会を成功させよう』『最高学年としての自分、仲間』(小6)

「これからの日本経済の課題」(中3)

このように、「学級活動」「総合的な学習の時間」だけでなく、キャリア教育の視点に立った教科指導も視野に入れ、研究を進めるようになった。

1. 部会テーマ

一人一人にあった、生きる力をつけるためのキャリア教育はどうあるべきか
～小・中における授業実践を通して～

2. 研究経過と予定

5月 8日 組織・テーマの検討

5月15日 春季教研報告

年間活動計画・研究内容について

6月 5日 年間計画検討

授業者決定

8月 5日 夏季学習会

統一授業研究指導案検討

入試制度改革アンケート結果検討

8月30日 統一授業研究(山梨北中・鶴田一路主幹教諭)

研究授業『文明とおこりと日本列島』『縄文の人々の生活』

- 10月 2日 実践報告
甲州地区小中学校の実践
- 11月 27日 県教研報告
実践報告
山梨地区小中学校の実践
- 1月 15日 統一授業研究授業案検討
実践報告（未発表校）
- 2月 5日 統一授業研究
研究授業（塩山北小・岡村澄人教諭）
- 2月 12日 研究の総括

3. 成果と課題

学習意欲の向上や学習習慣の確立のためにキャリア教育を行い、体験的な学習、知識・技能を活用する学習により、勤労観や職業観を育てていく。小学校においても、中学校においても教育活動の様々な場面で「自己有用感（自己肯定感）をいかに育てていくか」がキャリア教育にとって大切な部分である。

『キャリア教育の在り方』について、『4領域8技能』から『基礎的・汎用的能力』へと転換されていることを踏まえ、キャリア教育の視点を取り入れた教科の授業についての研究を行っている。その際、集団における自己の役割を意識させる授業や言語活動を通してキャリア教育で求められていることの実現に向けた取り組みも行っている。

また、小中の連携同様、人間関係の構築や学力保障の点から、中高の連携も今後さらに必要になってくると思われる。高校説明会や高校からの中学校訪問以外にも高校教師と話をする機会を設定していく必要性も感じる。

小学校からの所属部員を増え、研究も深まってきている。中学校において各校のキャリア教育の担当が学年主任・副主任という立場であることが多いため、所属部員に学級担任が少なく、授業実践をもとに研究するのが難しい面があった。この点については、キャリア教育の視点を取り入れた教科の指導についての研究を継続的に実施し始めたところである。

また、高校入試課題アンケート結果を活用して、部会の研究で出された意見を中学校からの要望として様々な機会を利用して高校側へ伝えていくことも必要である。

4. 研究部会員

指導助言者 堀内 浩（勝沼中学校長） 大堀 慎司（大和中学校長）
部長 辻 純二（山梨北中）
副部長 中村 英彦（祝 小） 金井 毅（山梨南中）
部員 桐原 誠之（塩山中） 河野 美春（塩山北中） 清水佐知子（松里中）
網野 勝朗（勝沼中） 岡村 澄人（塩山北小）
鶴田 一路（山梨北中） 田草川富夫（山梨南中） 小川 寿子（笛川中）
武井 晴彦（笛川中） 小林 淳子（八幡小）

第1学年社会科学学習指導案

指導者 山梨北中学校 鶴田 一路

1. 単元名 文明のおこりと日本列島

2. 単元について

『文明の起こりと日本列島』の単元は、地球上に人類が出現し、進化していく過程で文明を発展させていったこと、および日本列島がいつどのように形成されこの土地で人々の生活が始まったのかを学習する。そのうち「世界の古代文明や宗教のおこり」については、人類の出現にも触れつつ日本と最も関わりの深い中国の文明を中心にしながら、世界の各地で人々が農耕や牧畜を基盤に諸文明を築いたことを扱い、その際に生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展などの共通する特色に気づかせる。また、三大宗教と文明の関連についても学んでいく。また、「日本列島における農耕の広まりと生活の変化、人々の信仰」については、日本の豊かな自然環境の中における生活が農耕の広まりとともに変化していったことや自然崇拜や農耕儀礼などに基づく信仰が人々の中に生きていたことに気づかせる。その際に新たな遺跡や出土物の発見による考古学の成果の活用を図るようにすることが重要である。

日本における原始の時代の学習は、文献がないので遺跡や出土品から考察していくしかない。よって考古学の研究から得られた成果を子どもたちのどう伝えていくのが重要になってくる。縄文や弥生の時代は研究成果から得られた時代の想像図を使い当時の様子や生活や連想させることが多い。今回の授業では想像図の中に生活する自分たちと同じ世代がどのような夢や希望を持っていたのかを考えることによって当時の生活の様子を理解すると同時に現在の自分たちの生活との違いや将来の可能性の多さに気づくことを目的に授業を考えた。

3. キャリア教育との関連

(1) キャリア教育の目的

キャリア教育で育成すべき力、「基礎的・汎用的能力」は、4つの能力によって構成されている。

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受けとめ、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

「課題対応能力」は、仕事をする上でのさまざまな課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自ら果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

(文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」より)

(2) キャリア教育と社会科

社会科では、様々な社会的事象から課題を設定して追求していく中で、個人と社会のかかわりについて理解を深め、社会的な見方考え方の基礎を形成するとともに、社会の変化に適切に対応し、その中で自ら学び、自ら考える力を養うことをめざしている。このことによって中学校学習指導要領で理念として掲げられている「生きる力」を育むことが目的とされている。また、この理念を実現するために必要なこととして、知識や概念、技能を確実に身につけるとともに、思考力、判断力、表現力などそれらを活用して探求する力を養う観点から、各種資料から必要な情報の読み取りや社会的事象の意味や意義の解釈、様々な事象の特色の説明と自分の考えの論述などの学習を通して、社会の一員として様々な事柄に主体的に参画する資質や能力を育成することがあげられている。これは、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」と特に深く関わっていると考えられる。

(3) 中学校社会科歴史的分野とキャリア教育の関連

学習指導要領によると中学校社会科歴史的分野の目的は(1)「歴史的事象に対する関心を高め、わが国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通してわが国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、わが国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。」(2)「歴史上の人物や文化遺産を尊重する態度を育てる。」(3)「国際関係や文化交流を理解させ、国際協調の精神を養う。」(4)「身近な地域の歴史や具体的事象の学習を通して興味関心を高め、公正に判断し、適切に表現する能力と態度を育てる。」の4点である。社会科全体の目標にもあるように公民としての基礎的教養を培うためにわが国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、様々な態度や精神を育てることにある。このことは、社会の一員として主体的に社会に参画し貢献していく基礎を養うことであり、キャリア教育で育成するべき項目と関連していると考えられる。一方で、歴史を学習することは個人個人の生き方を考えることにも繋がっている。歴史学習の目的は、過去を知ることによって現在を考え、よりよい未来を切り開いていく力を養うことにある。自分はどう生きるかを考えるための要素を過去から学ぶという大きな意味もある。ただ単に歴史的事象を覚えるだけでなく、その時人々は何を考えどう生きたかを科学的に認識し、自分の生き方を考えることにつなげていくことが歴史教育の重要な部分であると考えられる。

4. 生徒の実態

1年生は社会科に対する興味関心も高く、意欲的に授業に取り組むことができている。また、学習規律も確立されつつあり、指示されたことにはきちんと取り組もうとしている。しかし、課題の提出状況や取り組み状況には個人差があり、なかなか取り組むことができない生徒への支援が必要である。また、授業中の発言にも差があり積極的に挙手をして発言する生徒とそうでない生徒がいるので、挙手による指名と列指名を併用している。発言の内容も

単語の羅列や思いつきによる発言が多く、深く考え適切な言葉を使った発言は少ない。また、基本的事項の定着にも差がある。このような現状を改善する手段として、班による話し合い活動や学び合いの学習活動を取り入れている。

5. 単元の目標

(1) 社会科

◇人類の出現や古代文明の発生，日本列島における人々の暮らしに対する関心を高め，意欲的に追求しようとしている。 【関心・意欲・態度】

◇世界の古代文明の特色や宗教のおこり，日本列島における人々の暮らしの変化について多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。

【思考・判断・表現】

◇人類の出現や古代文明の特色，日本列島における人々の暮らしに関して，考古学の成果をはじめとする様々な資料を活用し，読み取ったり図表にまとめたりしている。

【資料活用の技能】

◇人々が農耕・牧畜を始め，世界各地で古代文明が築かれたころ，日本列島では狩猟・採集中心の暮らしが営まれていたことを理解し，その知識を身に付けている。 【知識・理解】

(2) キャリア教育

◇話し合い活動等で他者の意見に耳を傾け，自らの考え形成し，正確に伝える活動をしなが
ら他者と協力して意見を形成する力を養う。 【人間関係形成・社会形成能力】

◇今の自分たちの生活は，長い歴史の上に築かれているものであることに気づく。

【自己理解・自己管理能力】

◇資料を活用しながら課題を発見し，歴史的事象の背景を理解する。 【課題対応能力】

◇生きるための人々の日々の営み（労働）が社会をつくっていることを理解する。

【キャリアプランニング能力】

6. 単元の指導計画

時	学習内容と目標	評価
第1次 1時間	<p>生きぬく知恵</p> <p>☆人類が進化する過程で，直立二足歩行や共同生活が果たした役割について考える。</p> <p>☆人々が道具を発達させ，農耕・牧畜を始めたことで，暮らしや社会が変化し，やがて文明が形づくられていったことを理解する。</p>	<p>・人類の進化や，狩猟採集の生活から農耕牧畜の生活へと暮らしを進化させていく過程に関心を高め，意欲的に調べようとしている</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>・暮らしを豊にするための人々の工夫について，道具の発達や農耕牧畜の始まりなどから多角的に考察している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

<p>第2次 1時間</p>	<p>骨に刻まれた文字 ☆中国文明とインダス文明の特色について、自然条件・農業・文字・金属器などの面から考える。 ☆文明地域でおこった儒教や仏教が、アジア各地や日本に広まり、社会や人々に影響を与えたことに気づく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中国文明とインダス文明の特色について地図や写真などから読み取って整理している。 【技能】 中国文明とインダス文明の形成過程や特色を理解している。また、儒教や仏教がアジア各地や日本に広まり、社会や人々に与えた影響を理解している。 【知識理解】
<p>第3次 1時間</p>	<p>エジプトはナイルの賜物 ☆エジプト文明とメソポタミア文明の特色や文字・暦・数学などの発達した理由について考える。 ☆世界各地でおこった古代文明を比べ、共通する特色に気づく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> エジプト文明やメソポタミア文明の発展の過程で、文学、暦、数学などが発達した理由について考察している。 【思考・判断・表現】 世界の文明が、それぞれの地域の人々の知恵や大河などの大自然の恵みとともに発展していることを、様々な資料を活用して読み取って整理している。 【技能】
<p>第4次 1時間</p>	<p>日本列島のあけぼの（1）旧石器時代の日本 ☆氷河時代の日本列島に大陸から旧石器時代の人々が移住し、生活を始めたことを理解する。 ☆日本にも旧石器時代があったことを発見した相澤忠洋の生き方や考古学に対する情熱に触れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 考古学の研究に情熱を注いだ相澤忠洋の生き方に関心を持つ。 【関心・意欲・態度】 氷河時代の日本列島に大陸から人々が移住し、生活を営むようになったことを理解している。 【知識・理解】
<p>第5次 1時間 〈本時〉</p>	<p>日本列島のあけぼの（2）縄文時代 ～縄文の人々の生活～ ☆縄文時代の人々の夢や希望を予想し、その時代の生活を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 縄文時代の人々がどのような夢や希望を持っていたのかを意欲的に考えようとしている。 【関心・意欲・態度】

	<p>☆縄文時代の人々の暮らしは、どのようなものであったかを遺跡や出土物から考える。</p>	<p>・縄文時代の人々の夢や希望を考えることによって当時の生活を予想し、現代との違いを考察することができる。 【思考・判断・表現】</p> <p>・縄文時代の人々の生活の様子を理解している。 【知識・理解】</p>
--	--	---

7. 本時の授業

(1) 日時 2013年8月30日(金) 2:00~2:50

(2) 場所 山梨北中学校 1年2組教室

(3) 題材 縄文の人々の生活

(4) 目標

- ・縄文時代の人々がどのような夢や希望を持っていたかを意欲的に考えようとしている。
【関心・意欲・態度】
- ・縄文時代の人々の夢や希望を考えることによって、当時の生活予想し、現代との違いを考察することができる。
【思考・判断・表現】
- ・縄文時代の人々の生活の様子を理解している。
【知識・理解】

(5) 展開

段階	学習内容・学習活動	教師の発問・支援	評価	指導上留意点
導入 5分	1. 現代の「将来の夢」について考える。	○あなたの将来の夢を教えてください。 ○「中学生のなりたい職業」を紹介する。		■形態（全） □職業の種類 約28300種 （労働省編「職業分類」）
展開 I 10分	2. 本時のテーマ「縄文人の夢を想像しよう」を提示する。 3. 山梨市八幡地区の「膳棚遺跡」について知る。	○縄文時代はどんな時代だったのだろうか。 ○「膳棚遺跡」に興味を持った理由を説明する。 ※『遺跡調査発表会』 ○「膳棚遺跡」の概要を写真で説明する。 ○「山梨の遺跡展」を紹介する。	・身近な地域にある遺跡に対して興味を持つ 【関心・意欲・態度】	■形態（全） □写真
展開 II 25分	4. 想像図を見て、縄文時代の生活について気がついたことを話し合い発表する。 5. 縄文人の夢について予想する。	○想像図「縄文時代の生活の様子」から縄文時代の生活について知る。 ○縄文時代の生活から当時の13歳は、どんな夢を持っていたのかを想像する。	・縄文人の夢や希望を想像図から考えることできる。 【思考・判断・表現】 ・班の話し合い活動に意欲的に取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】	■形態（班） □縄文時代の平均寿命 31歳程
まとめ 10分	6. 縄文時代の生活についてまとめ、現在の自分たちの生活を振り返る。	○縄文時代の生活をまとめ板書する。 ○縄文人の夢と君たちの夢を比べて思ったことを発表させる。	・縄文時代の生活の様子を理解している。 【知識・理解】	■形態（全） □板書

8. 授業を終えて

<授業者より>

- すべての教科においてキャリア教育との関連が年間指導計画に位置づけられている。
- キャリア教育の視点を教科の授業の中に取り入れるとき、一番大切なことは授業における教科の目的を達成することである。
- それぞれの教科の授業をキャリア教育の視点で見直していくことは大切なことであるが、本来の目的を見失わないように無理のない範囲で取り入れていくことが大切である。
- 教科の授業の中にキャリア教育の視点を取り入れていくとき、4つの『基礎的汎用的能力』を意識しながら授業を作っていく必要がある。
- 社会科の授業の中で「人間関係形成社会形成能力」を育てるためには、授業の中に話し合い活動などを取り入れ、他の人の意見を聴きながら自分の意見を形成し、適切な言葉で発表できる機会を取り入れていく。
- 「自己理解自己管理能力」を育てるためには、社会的事象に興味関心を持たせ、現在ある事象が多くの人々の努力や功績の上に成り立っているという視点を持たせることによって自分を振り返ることをさせる。
- 「課題対応能力」を育てるために、授業の中の課題を明確にし、様々な手段を使ってその課題を解決していけるような授業構造を考える。
- 「キャリアプランニング能力」を育てるためには、自らが「働く」という視点を持って人々の生き方を考えていくことや労働によって生きる糧が得られてきたことを理解することが重要である。
- 今回の授業の目的は、縄文時代の生活を理解することであるが、自分たちの住む地域に縄文時代から人々が生活を営んでいたことを知ることで、より身近な問題ととらえさせ、自分たちの先祖がどのような生活していたのか、どのようなことを考えながら生きていたのかを予想することで縄文時代の生活の様子や苦勞を理解しようとする授業を考えた。
- 班での話し合いや発表の仕方など拙く、まだ指導できていない面が多かったことが改善していかなければならない点である。

<参観者から>

- 地域教材を取り入れることは有効である。
- 話し合い活動の時の人数やルールは、発達段階によって違ってくる。それぞれの発達段階に応じて適切な人数を選んでいくべきである。また、役割分担や話し合いのルールを明確にしておくともスムーズな話し合い活動ができる。
- 子どもたちの豊かな発想が引き出せてよかった。
- 子どもたちは、無意識の中にキャリア教育で育てたい能力を学ぶことができていた。
- 子どもたちは多くの可能性があり、自分の能力を努力次第で生かせる現代の世の中の生きていることを自覚できたと思う。
- 言語活動を充実させることが、キャリア教育の能力を育てることにつながっていく。

山教連第63次

教育研究集会報告書

東山

教科の授業を通してのキャリア教育

社会科

文明のおこりと日本列島「縄文の人々の生活」

- ・縄文時代の生活や人々の夢について考えて発表する

18

山連教 東山地区

山梨北中学校 鶴田一路